アセンヤク
Gambrir
GAMBIR
アセンヤク

本品は Uncaria gambir Roxburgh (Rubiaceae) の葉及び若枝から得た乾燥木実エキスである。

性状 本品は褐色〜暗褐色の碎くやすい塊で、内部の色は淡褐色を呈する。

本品はわずかににおいがあり、味は極めて淡く苦い。

確認試験
（1）本品の粉末 0.2 g に水 10 mL を加え、水浴中で20分前後再加熱した後、ろ過し、冷後、ろ液にゼラチン試液 2 〜 3 滴を加えるとき、液は白濁するか又は色の沈殿を生じる。
（2）本品の粉末 0.1 g に希エタノール 20 mL を加え、20分間振じた後、ろ過し、ろ液 1 mL に希エタノール 9 mL を加えた液 1 mL にバニリン・塩酸試液 1 mL を加えるとき、液は赤色〜赤褐色を呈する。

灰分 6.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.5 % 以下。

エキス含量 希エタノールエキス 70.0 % 以上。

アセンヤク末
Powdered Gambir
GAMBIR PULVERATUM
阿仙楽末
ガンビール末

本品は「アセンヤク」を粉末としたものである。

性状 本品は赤褐色〜暗褐色を呈し、わずかににおいがあり、味は極めて淡く苦い。

本品をオイル油又は流動パラフィンに浸して検験をするとき、顕状結晶の塊又は赤褐色〜赤褐色の有角的な片片かより、表面線状及び混濁化した毛を認める。

確認試験
（1）本品 0.2 g に水 10 mL を加え、水浴中で20分前後再加熱した後、ろ過し、冷後、ろ液にゼラチン試液 2 〜 3 滴を加えるとき、液は白濁するか又は色の沈殿を生じる。
（2）本品 0.1 g に希エタノール 20 mL を加え、20分間振じた後、ろ過し、ろ液 1 mL に希エタノール 9 mL を加えた液 1 mL にバニリン・塩酸試液 1 mL を加えると

亜亜酸バスタ
Arsenal Paste

本品は定量するとき、亜亜酸化ヒ素 (As₂O₃; 197.84) 36.0 〜 44.0 % を含む。

製法

<table>
<thead>
<tr>
<th>成分</th>
<th>重量</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>亜亜酸化ヒ素</td>
<td>40 g</td>
</tr>
<tr>
<td>塩酸プロピシン</td>
<td>10 g</td>
</tr>
<tr>
<td>親水軟膏</td>
<td>30 g</td>
</tr>
<tr>
<td>チョウジ油</td>
<td>適量</td>
</tr>
<tr>
<td>時 用炭</td>
<td>適量</td>
</tr>
<tr>
<td>全量</td>
<td>100 g</td>
</tr>
</tbody>
</table>

「亜亜酸化ヒ素」及び「塩酸プロピシン」をとり、親水軟膏と混和し、チョウジ油を加えて適当の稠度としたり、薬用炭を加えて着色する。

性状 本品は灰白色で、チョウジ油のにおいがある。

確認試験
（1）本品 0.1 g を固体フラスコにとり、発煙硝酸 5 mL 及び硫酸 5 mL を加え、直火で加熱し、反応液が無色となり白煙を生じたとき、冷却し、注意して水 20 mL に加え、温時に、発煙硝酸試液 10 mL を加えるとき、黄色の沈殿を生じる（亜亜酸二ヒ素）。　
（2）本品 0.5 g にエチルアルコール 25 mL、希塩酸 5 mL 及び水 20 mL を加えてよく振り混ぜ、液を分取し、ろ過する。ろ液は芳香族第一アミンの定性反応を呈する（塩酸プロピシン）。　
（3）本品 0.5 g にエチルアルコール 25 mL 及び水 25 mL を加えてよく振り混ぜ、液を分取し、ろ過し、ろ液を蒸留液とする、別に塩酸プロピシン 0.01 g を水 5 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5 μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（塩酸解剤を加え溶媒を加え蒸留する）に用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/エタノール (99.5%) /アンモニア水 (28%) 混液 (50:5:1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後に、薄層板を乾燥する。これに紫外光（主波長 254 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液から得たスポットの R₅ 値は等しい。

定量法 本品 0.3 g を精密に量り、150 mL のケルダー浮酸に入れ、発煙硝酸 5 mL 及び硫酸 10 mL を加えてよく混ぜ、注意して初めに強く、後に強く加熱する。赤色の酸化硝酸ガスの発生がみなったとき、加熱をやめ、冷後、更に発煙硝酸 5 mL を加えて再び加熱し、赤色の酸化硝酸ガスの発生がみられ、反応液が変色したとき、加熱をやめて冷後、更に10分間加熱し、ケルダーを完全に分解する。冷後、あらかじめ水 40 mL を入れた共栓フラスコに反応液を注意して移し、ケルダー浮酸ソーダ水を 60 mL でよく洗い、洗